

平成30年度 えりも高校第1回授業評価アンケート結果分析

アンケート実施期間：6月4日～6月15日

質問項目（各教科・科目共通）

教科担任 に関する 項目	①	授業のねらいやポイントがわかりやすい。
	②	生徒が取り組みやすいように、準備や展開に配慮がなされていた。
	③	一方的な説明だけではなく、生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを交流・発表したりできるような授業であった。
生徒自身 に関する 項目	④	授業規律を守って学習している。
	⑤	授業に積極的・主体的に参加している。
	⑥	この授業を受けて学力や技能の向上を実感している。

○生徒の評価

4～1の段階で評価する。

4	そう思う。
3	どちらかというと思う。
2	どちらかというと思わない。
1	そう思わない。

○評価の段階

生徒の評価の平均を以下の評価とする。

4以上	A評価
3.25以上	B評価
2.5以上	C評価
2.5未満	D評価

国語科

1 評価が高かった項目について

- ・プリントの構成をさらに工夫し、的確な指示を出すことを継続していく。
グループワークの反応は良いので、引き続き取り入れていく。
- ・授業態度は良好である。

2 評価が低かった項目について

- ・自己評価をさせることで学力、技能の向上を実感させる。

3 その他に気付いた点や、今後行っていきたい活動

- ・板書の構成をさらに工夫していく。
- ・他の国語科の先生の授業をお互いに見学し合う機会を増やし、研鑽を積む。
- ・効果的なアクティブラーニングの取り入れ方を研究していく。

地歴公民科

1 評価が高かった項目について

- ・2学年日本史B 3学年世界史A・日本史B

→全体的に概ね高評価であった。

項目⑥の「学力や技能の向上を実感していると感じている」生徒も多い様子。

授業計画の段階で単元全体を見通し、インプットとアウトプットのメリハリをつけていることや1単元ごとに「学習課題」を提示し、「今日は何を学び、何を考えるのか」といった本時のねらいを明確化していることなどが、生徒の評価につながった。

今後も単元全体を見通した授業計画を立てた上で、学習課題に基づき生徒が「主体的・対話的で深い学び」を行えるような工夫を継続して行っていきたい。

- ・ 1 学年現代社会 3 学年政治・経済 倫理

項目①・③については教科担任の課題となっていた部分であった。授業のはじめに取り組むことを説明し、授業の中で、考えたことを交流することを心掛けた。その結果、3.5 以上の評価を頂けたと感じる。

2 評価が低かった項目について

- ・ 1 学年現代社会 3 学年政治・経済 倫理

これらにおいては生徒の自己評価の低さが感じられる。授業内の活動で生徒の作業や交流・成果が残るような授業の実践が求められると感じる。

ノート指導に関してはこの授業で何を考えたのかを残るように板書との一体化を図りたい。その際、ワークシートの方が適している場合を見極められるよう心掛けた。

3 その他に気付いた点や、今後行っていきたい活動

- ・ なし

数学科

1 評価が高かった項目について

- ・ 1 年生は既習事項が多かったため、理解度、満足度ともに高かったと思える。
- ・ 授業規律については良好である。今後も継続させたい。

2 評価が低かった項目について

- ・ 内容が難化したため理解に苦しんでいる生徒が増えた。授業内でしっかりフォローしたい。
- ・ 2 年生の学力や技能の向上の実感が低いのは、問題設定が高いことが考えられるので、基礎問題の演習を増やしたい。
- ・ 授業のねらいやポイントは教科書に明記されているが、低学力層ほど教科書を開く習慣がない。教科書を開かせるところから指示をしていきたい。

3 その他に気付いた点や、今後行っていきたい活動

- ・ 生徒の学力に合わせて授業の難度を引き下げるのではなく、学力を引き上げられるようフォローしていきたい。

理科

1 評価が高かった項目について

- ・ 科目によっては理解しづらかったり、計算ができなかったりすることもあるが、生徒の理解度を見ながら、今後も指導していきたいと考えている。

2 評価が低かった項目について

- ・ なし

3 その他に気付いた点や、今後行っていきたい活動

- ・ 特になし

保健体育科

1 評価が高かった項目について

- ・すべての項目において高評価（よく考えて回答していない or 何も感じていない？）を得ているが、中でも気になる点は生徒自身に関する評価項目の⑤「授業に積極的・主体的に参加している。」（④もだが）が、学年が上がるにつれて微増している。これは、授業の内容も学年が上がるにつれて主体的な活動の割合を増やしていることが少しは関係していると思われるので、3年間の長期的に見た指導計画を今後も継続していきたい。

2 評価が低かった項目について

- ・特に目立って低い項目はないが、やはり⑥「この授業を受けて学力や技能の向上を実感している。」が他に比べて低いので、「できる」「わかる」を実感できるような段階的指導・丁寧な指導を心がけていきたい。

3 その他に気付いた点や、今後行っていきたい活動

- ・特になし

英語科

1 評価が高かった項目について

- ・1学年は全ての項目でA評価であり、中学での既習事項の復習を継続していることで、生徒の理解度が高まり、高評価につながっていると考える。今後は、高校の学習事項に入っていくので、生徒の理解度に合わせた授業展開を心掛けていきたい。また、全学年で、授業展開に関するすべての項目でA評価であり、生徒が主体的に学習できるような授業展開を意識した結果が表れていると考える。今後もより、授業研究を続け、「主体的で深い学び」につながる授業を心掛けたい。

2 評価が低かった項目について

- ・2、3学年の⑥「この授業を受けて学力や技能の向上を実感している」の項目でB評価であった。学年が上がるにつれて、学習内容が複雑になっていくことから、そのように感じている生徒が多くなってきているものと考えられる。一つ一つの学習項目を整理し、きめ細かな指導を徹底して、生徒の学力・技能の向上に努めたい。

3 その他に気付いた点や、今後行っていきたい活動

- ・各授業でのねらいやポイントを提示し、何を学ぶのか、どのような技能が身につくのかななどを明らかにした授業展開をもっと心掛けていきたい。
- ・生徒の周りにある身近な表現や日常生活で使うことのできる表現を身につけさせられるよう、日頃からの授業に組み込んでいきたい。

家庭科

1 評価が高かった項目について

- ・全体的に、ねらいやポイントなどは伝わっている様子である。授業の最初に、学習目標や態度目標を提示していてわかりやすいとの声があったので今後も続けていきたい。

2 評価が低かった項目について

- ・学習活動の取り組みの準備や展開に配慮を感じるものの、いまいち積極的に・主体的に参加の項目が伸びない。今後、各学年保育所実習を皮切りに調理実習、被服実習、高齢者教室など技術やコミュニ

ケーション能力を高める体験学習を設定している。自分の学力や技能の向上を実感できる学習につながっていききたい。

3 その他に気付いた点や、今後行っていききたい活動

情報科・商業科

1 評価が高かった項目について

- ・どの教科も評価は全体的に高く、その要因としては、実務系の授業が中心だということが考えられる。「入力スピードが上がった」「実技問題ができるようになった」など、目に見えて自分自身の成長度合いを知ることができるため、高評価につながっている。特にパソコンの入力練習は、社会に出てからも役に立つ力だと思うので継続していききたい。

2 評価が低かった項目について

- ・③の「一方的な説明だけではなく、生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを交流・発表したりできるような授業であった。」がどの教科も低かった。問題を解かせる形式の授業が多く、グループワークなどの形が取れなかったことが原因だと考えている。検定に偏った授業になることを気を付けながら、状況によってグループワーク等の授業も取り入れていききたい。

3 その他に気付いた点や、今後行っていききたい活動

- ・どの授業も生徒はよく頑張っている。与えられた課題をクリアすることだけの授業に終わることなく、より主体的、効率的に考えて判断できる力を身に付けさせていききたい。